

What's happening?

私の目から見た徳島大学

2008阿波踊り(後列1番右が筆者)

2003年に、私は中国の四川省から徳島にやってきた。なぜ徳島だろうと疑問されることも多いが、5年間以上も過ごしてきた自分は徳島で本当に良かったと思っている。

「徳島ってどんなところですか?」県外の国際交流イベントなどに参加する際に、よく聞かれる質問である。

「田舎で、日本で唯一電車がない県ですよ。」(笑)

「え〜」って驚いたところに、「セブンイレブンもないよ」と追加に話したら、さらにの「え〜」と関心が寄せられてくることはしばしばである。このアンサー・パターンはなかなかの良いネタで、同級生はこれ



工学部建設工学科4年
陳君 ちんくん[中華人民共和国]

こっち旅して楽しんでいる。これはまさに本来の大学の形ではないだろうかと思う。徳島大学は日本学生にも、私のような留学生にも勉強に相応しい環境を提供してくれて、本当に感謝している。これからも、もっと魅力のある企画を考え、

留学生にアピールし、国際的な人材をたくさん育てていくことに期待している。

を使って、新入社員の懇親会で大受けしたこともあるらしい。しょうもないネタかもしれないが、この何もなさそうなことは学生である自分たちにとって徳島の最大な良さであると思っている。

そう、私たちはこんな素朴な徳島で、田舎ならではの素朴な学生として育てられている。

最初、遊び盛りのみんなと同じように嫌という感じも多少あった。都会の華やかさもなく、遊べるところもない、勉強のみは生活の重点となってしまった。さらに、先生が厳しく、日本一の留年率も記録したうわさもあるから、プレッシャーが半端ではない。まして、留学生である自分は四苦八苦の日々だった。しかし、そのおかげでみんなが大きくなってきた。皆さんは誇りを持って、自慢してもいいと思う。なぜなら、徳島大学の学生みんなは本当にいい学生が多い。同級生のみんなが望む会社に就職ができ、今は研究しながら、休日にあっち



2008同級生京都旅行(中央が筆者)



2008餃子パーティ



2008ゼミ旅行(左列1番手前が筆者)